



## 空から川を眺めたい

内水面試験場では漁場環境やアユの産卵場など、川のフィールドに出  
て調査を行うことが多く、研究員は県内を日々駆けずり回っています。

調査を行う際には、環境データや魚の採捕数などを地点ごとに記録す  
る必要があり、そのためには川の地図が欠かせません。インターネットで  
川の地図や衛星画像が手に入りますが、残念ながらこれらは過去の川の  
姿であり、目の前にある川の姿とは異なっていることがほとんどです。

そこで、調査を行う前には現場へ何度も下見に出向き、川の今の姿を反  
映させた調査用地図を作成することになります（写真1）。河原を歩き廻  
りながら川の流れや水深などを観察するとともに、巻き尺やレーザー計  
を用いて川の長さや幅を計測し、それをもとにして白紙に川の形を描き  
写していきます。草木が邪魔で計測ができなかったり、計測数値そのもの  
に誤差が生じてしまったりして、出来上がった川の地図は歪みをともしな  
い、時間をかけた割には必ずしも満足のいくものにはなりません。

「ヘリコプターに乗りたいなあ」、「鳥になりたいなあ」と想像を膨らま  
せ、拳句の果てには「ヘリコプターになりたいなあ」などと妄想するに至  
ります。でも、想像・妄想が現実になる時代が来たんですね。

この度、内水面試験場ではドローンを導入しました（写真2）。研究員は鳥やヘリコプターのごとく俯瞰的視野を手に入れることができ、調査が飛躍的にやりやすくなるものと期待されます。これまで何日も通いながら作成していた川地図に代わって、ドローンを飛ばせばスイッチポンで鮮明な川写真が瞬時に得られます。誤差も歪みもない正真正銘そこに存在する川の姿です。得られた川写真は調査を行う際に役立つだけでなく、アーカイブとして残せば貴重なデータベースにもなるでしょう。

今はまだ試験場の敷地内で操作練習をしている段階ですが、実践投入を想像するとワクワクが止まりません。ただし、私は高所恐怖症なので、コントローラ画面（写真3）を見ていると下半身のゾワゾワも止まりません。

内水面試験場 専門研究員 井塚 隆

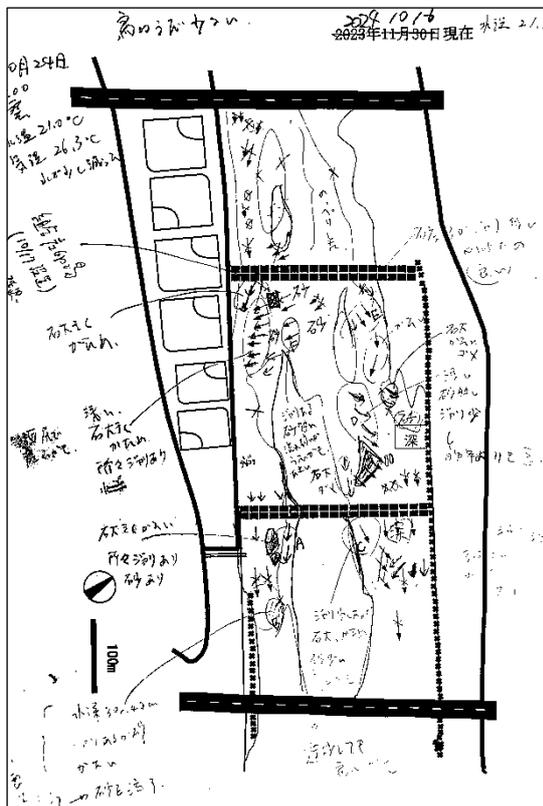


写真1 調査用地図の作成例



写真2 導入したドローン



写真3 コントローラ画面